

# KYOTO GRAPHIE

international  
photography festival

Circle of Life | いのちの環

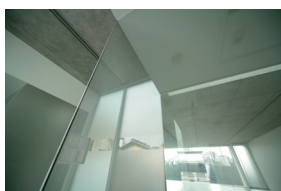
京都で開催される写真フェスティバル「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2016」のニュースリリースをお送りします。貴媒体にて情報のご掲載やアーティストへの取材をご検討いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

## KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2016 開催会場および屋外イベントのご案内

「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2016」は、文化施設が集まる京都・岡崎エリアを中心に、通常非公開の町家や寺院、指定文化財等を含む市内15会場にて14の展覧会を行うことが決定致しました。また、アソシエイト・プログラムとして2つの展覧会や、本年度初めて開催する屋外イベント「Sustaina-village (サスティナビレッジ) by KYOTOGRAPHIE」など、様々なプログラムにてフェスティバルをご堪能頂けます。(\*の数字はプログラムリスト参照)



上: ©ERWIN OLAF  
下: ASPHODEL



世界最古のシャンパーニュメゾン、ルイナルは、120年前にアルフォンス・ミュシャが初めて広告を手がけるなど、芸術家達と深いつながりを持っていました。毎年アーティストとのコラボレーションを実施するルイナルが今年そのパートナーとして選んだのは、オランダの写真家アーウィン・オラフ。その作品がKYOTOGRAPHIEにて日本で初めて公開されます。ASPHODEL\*12

### [開催概要]

名称: KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2016

(英語表記: KYOTOGRAPHIE)

International Photography Festival 2016)

テーマ: Circle of Life いのちの環

会期: 2016年4月23日[土] - 5月22日[日]

\*一部会期が異なる会場があります。

主催: KYOTOGRAPHIE 実行委員会

共催: 京都市、京都市教育委員会

※プログラム内容や関連イベントについて掲載した詳細なプレスキットおよび過去のニュースリリースを公式ホームページからダウンロードいただけます。

[www.kyotographie.jp/press](http://www.kyotographie.jp/press)



上: The rock ©Sarah Moon  
下: 招喜庵(重森三玲旧宅主屋部)  
[通常非公開]



昭和を代表する作庭家重森三玲の旧邸主屋部招喜庵(しょうきあん)\*2b [通常非公開] で、サラ・ムーンが水平線をイメージしたモノクロームのシリーズ「Time stands still」を発表します。薄い土佐和紙に印刷されたプラチナプリントの作品が、モダンな書院造の建築のやわらかい光の中で、より幻想的に映し出されます。

### [プレス向けイベント日程]

\*ご参加にはお申し込みをお願いします。

4月22日[金] 日中 VIP & プレスプレビュー

4月23日[土] 夕方 オープニングレセプション

ハイアットリージェンシー京都

4月24日[日] 夕方 ポートフォリオレビュー & KG+レセプション

ハイアットリージェンシー京都

5月20日[金] 夕方 クロージングパーティ

※オープニングには展示作家の多くが来日予定です。詳しい来日情報やインタビュー取材ご希望の場合はお問い合わせください。

[お問い合わせ、取材のご依頼、掲載写真のご用命は下記までお問い合わせください。]

〒603-8146 京都市北区鞍馬口通寺町西入ル新御霊口町270 KYOTOGRAPHIE 事務局 <http://www.kyotographie.jp>

◎事務局内広報担当: (日本語) 木薮・市川・鮫島 | (英語・フランス語) パジェ | [press@kyotographie.jp](mailto:press@kyotographie.jp) Tel & Fax. 075-708-7108

◎東京広報担当: 森繁 | [tokyopress@kyotographie.jp](mailto:tokyopress@kyotographie.jp) Tel.03-3725-8877(traffic内)

# KYOTO GRAPHIE

international  
photography festival

## 新たなコラボレーション

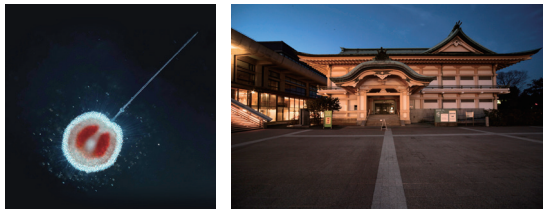
●グローバルに芸術支援を展開してきたBMWがプログラムの中でも最も目玉となる「PLANKTON 漂流する生命の起源」展\*8をサポート、KYOTOGRAPHIEとのコラボレーションをスタートしました。テクノロジーとアートが織りなす自然の神秘をご覧ください。

●「平和と民主主義」を教学理念とする立命館大学が開設した「国際平和ミュージアム」が、KYOTOGRAPHIEとともに報道写真家・福島菊次郎展を共同企画しました。市内中心部に位置する堀川御池ギャラリー\*4aでは、ダイジェストを紹介。京都西北の名刹に囲まれた国際平和ミュージアム\*4bでは、福島の遺産ともいえる自ら手作りしたパネル群を公開します。

## 話題の岡崎エリアや、由緒ある建造物が舞台

### ●再整備すすむ京都の文化ゾーン——岡崎エリア

今年リニューアルオープンしたばかりの**ロームシアター京都\*10**で、Lianzhou Foto Award 2015年度大賞を受賞した中国の写真家銭海峰(チェン・ハイフェン)の日本初の個展を行います。また、ロームシアター京都に隣接する**京都市美術館別館\*8・9**では、Vogue(ヴォーグ)やVanity Fair(ヴァニティフェア)などの雑誌を通じてファッション写真の傑作を世に送り出してきたコンデナスト社のアーカイブ作品展「Coming into Fashion—コンデナスト社のファッション写真でみる100年 presented by CHANEL NEXUS HALL」と、クリスチャン・サルデ:写真・映像、高谷史郎:インスタレーション、坂本龍一:サウンドのスペシャルなコラボレーションによる、生命の起源と進化をテーマとした壮大なスケールの展覧会「PLANKTON 漂流する生命の起源」が開催。平安神宮前に位置する京都・岡崎エリアにてKYOTOGRAPHIEの3つの展覧会をお楽しみ頂けます。



左: Radiolarian *Spongodiscus biconcavus* from Shimoda bay  
This unicellular planktonic organism measures about 0.1mm  
© Christian Sardet and the macronauts / Plankton Chronicles  
右: 京都市美術館別館

### ●商いと祇園祭の中心地——烏丸エリア

古くから商業や交通の要として栄えてきた烏丸エリアは、祇園祭の起点としても重要な場所です。鉦町の中心地に位置する**無名舎\*6**では「マグナム・フォト/EXILE一居場所を失った人々の記録 EXILE: 1945 to Today by Magnum Photographers」展を開催。

また同エリア内にあり、代々呉服卸商を営んできた伝統的な厨子二階(つしにかい)型の京町屋、**長江家住宅\*7**で、2015年度「KG+AWARD」でグランプリを受賞した古賀絵里子が、撮りおろしの最新作「Tryadhvan(トリアドヴァン)」を発表します。ここでは作家自身が宿した新たな生命を軸に日常を映し出した作品の世界観を、かつつの趣をたたえた「走り」(台所部分)、化粧部屋、浴室などを備えた職住一体型の生活の空間で体感いただけます。



左: Tryadhvan, 2015 ©Eriko Koga  
右: 長江家住宅  
[京都市指定有形文化財 | 通常非公開]

### ●古都の街並みと賑わいの共存——祇園エリア

美しい池泉廻遊式庭園[京都府指定名勝庭園]と織田有楽斎好みの茶室如庵の写し水月亭を持つ**兩足院(建仁寺内)**[通常非公開]\*13では、森や湖など雄大な自然の中に自身の肉体をおきセルフポートレートを撮影するアルノ・ラファエル・ミンキネンが、京都で滞在制作した作品および代表作を発表します。



左: Narragansett, 1973 © Arno Rafael Minkinen courtesy PUG OSLO  
右: 兩足院(建仁寺内) [通常非公開]

## Sustaina-village (サスティナビレッジ) by KYOTOGRAPHIE



左: Sustaina-villageに参加する「ena farm(エナファーム)」主催のマルシェの様子  
右: スライドショー上映の参考イメージ

開催予定日: 5月3日[火・祝/憲法記念日]・4日[水・祝/みどりの日]  
開催予定場所: 岡崎公園、ロームスクエア(京都市美術館別館前広場)

メインテーマである「Circle of Life いのちの環」にちなみ、Sustainable(サスティナブル=循環型持続可能)な社会のあり方を提案するようなマルシェやワークショップ、夜は巨大スクリーンへのスライドショーの上映および屋外ライブを実施。

# KYOTO GRAPHIE

international  
photography festival

## 14の展覧会を京都市内15会場にて開催 +アソシエイテッド・プログラムとして2つの展覧会

1

「フランス国立ギメ東洋美術館・  
明治写真コレクション  
茶のある暮らし」  
虎屋 京都ギャラリー

2a

サラ・ムーン (フランス)  
「Late Fall」  
ギャラリー素形 (然花抄院内)

2b

サラ・ムーン (フランス)  
「Time stands still」  
招喜庵 (重森三玲旧宅主屋部)  
[通常非公開]

3

ティエリー・プエット (フランス)  
「うまれて1時間のぼくたち」  
堀川御池ギャラリー 1階

4a

福島菊次郎 (日本)  
「WILL: 意志、遺言、そして未来—  
報道写真家・福島菊次郎」  
(立命館大学国際平和ミュージアム共同企画)  
堀川御池ギャラリー 2階

4b

福島菊次郎 (日本)  
「WILL: 意志、遺言、そして未来—  
報道写真家・福島菊次郎」  
(立命館大学国際平和ミュージアム共同企画)  
立命館大学国際平和ミュージアム  
(4/23-5/29)

5

クリス・ジョーダン (アメリカ) +  
ヨーガン・レール (ドイツ)  
「Midway: 環流からのメッセージ」  
誉田屋源兵衛 黒蔵 [通常非公開]

6

「マグナム・フォト/EXILE—  
居場所を失った人々の記録  
EXILE: 1945 to Today  
by Magnum Photographers」  
無名舎  
[京都市指定歴史的意匠建造物  
・指定景観重要建造物 | 通常非公開]

7

古賀絵里子 (日本)  
「Tryadhvan (トリャドヴァン)」  
長江家住宅  
[京都市指定有形文化財 | 通常非公開]

8

「Coming into Fashion—A Century of  
Photography at Condé Nast  
コンデナスト社の  
ファッション写真でみる100年  
presented by CHANEL NEXUS HALL」  
京都市美術館別館 1階

9

クリスチャン・サルデ (フランス): 写真・映像  
高谷史郎 (日本): インスタレーション  
坂本龍一 (日本): サウンド  
「PLANKTON 漂流する生命の起源  
supported by BMW」  
京都市美術館別館 2階

10

銭海峰 (チェン・ハイフェン/中国)  
「The Green Train 緑皮車」  
ロームシアター京都

11

アントニー・ケーンズ (イギリス)  
「LA-LV/ LDN\_ Process  
HARIBAN AWARD 2015」  
SferaExhibition

12

アーウィン・オラフ (フランス)  
「Light by Erwin Olaf for Ruinar」  
ASPHODEL

13

アルノ・ラファエル・ミンキネン (フィンランド)  
「YKSI: Mouth of the River,  
Snake in the Water, Bones of the Earth」  
両足院 (建仁寺内) [通常非公開]

---

### アソシエイテッド・プログラム Associated Program

14

K-NARF (フランス)  
「BRICOLAGE PHOTOGRAPHY」  
村上重ビル 地下  
(4/23-5/8)

15

サラ・ムーン (フランス)  
「サラ・ムーン 1, 2, 3, 4, 5」  
何必館・京都現代美術館  
(4/21-6/26)

[入場料] ◎チケット: 会期中各会場にて販売、当会場のみ1回入場可能。料金は各会場により異なる (一部無料会場有り)  
◎バスポート: 15を除く会期中全会場各1回のみ入場可能 前売 (一般のみ) 2700円、一般 3200円、学生 (大学・高校・専門生) 2000円  
◎一般プチバスポート: 15を除く4会場、1日のみ有効 2000円  
チケットぴあ、e+(イープラス)、および会期中に各有料会場にて販売  
\*アソシエイテッド・プログラム (何必館・京都現代美術館) は上記バスポートには含まれません